国語科教育における「想像的作者」の可能性

―R.ローゼンブラットの交流理論に基づく理論的・実践的検討―

教育実践高度化専攻　教科指導重点コース　言語・社会科学系（国語）
久保田　幸

本研究は、国語科授業において依然として作家論的・画一的な読みが行われている現状を踏まえ、読者論、とりわけ、ローゼンブラットの交流理論を再検討し、「想像的作者」を媒介とした読みの意義を明らかにすることを目的とした。交流理論は、読者がテクストに反応する過程で感情や経験を理解しながら読むことを重視しており、その際、読者は無意識のうちに「想像的作者」を立ち上げていると捉えられる。本研究では、『ナイン』『山月記』を教材とした授業実践を通して、語り手・登場人物・場面など複数の視点から作品を読み進めさせた。その結果、生徒は「登場人物＝作者」という限定的な読みを超え、自身の知識や経験、他者理解を基に解釈を深め、作品を多層的・俯瞰的に捉える姿を示した。一方で、単一の登場人物の視点からのみ「想像的作者」を立ち上げてしまう生徒も少数ながら確認され、そのような生徒も含めて授業を構成することが課題として明らかとなった。